

## Kofax AP Agility

請求書の受領と買掛金 (AP) ワークフロープロセスの自動化への投資は、APの課題への対応として最も効果的であり、独立系アナリストによると、トップクラスのAP組織がもっともよく採用している戦略です。遅れている企業は高いエラー率と例外管理コストに苦しんでいる一方、市場をリードする企業は電子請求書の割合が高く、タイムリーに対応することで、早期支払いによる割引の機会を捉え、支払いの遅れによる罰金を回避できます。また、このような企業は人、部門、オペレーション、システムを統合された、エンドツーエンドのAPプロセスに統合することを選んでいきます。

あらゆる規模と種類の組織において常に、経営陣からAP改善を求める圧力があります。

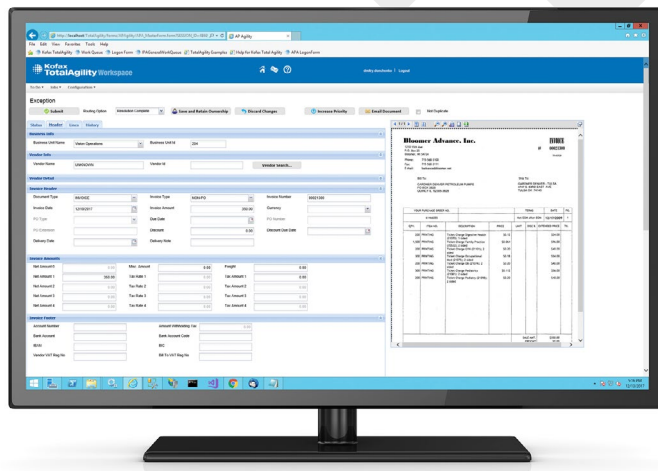
- ◆ 経営陣によるコスト削減の命令
- ◆ 請求書とAP文書の可視性の不足
- ◆ コストのかかるエラー、請求書の重複および急ぎの請求書
- ◆ 紙ベースのAP文書管理の問題
- ◆ 労働集約的で非生産的なワークフロー
- ◆ 積極的な現金管理の不足
- ◆ 不十分な制御により、許容できない詐欺リスクの発生

### Kofax AP Agilityのご紹介

Kofax AP Agility™は、Kofax TotalAgility®デジタル変換プラットフォームで構築された単一または複数のERPに対応する、AP自動化ソリューションです。さらに、

- ◆ Kofax Invoice Processing Agility™ (キャプチャ)、プロセス管理および分析と組み合わせ、AP専門家に影響を与える課題に対処します。
- ◆ タイムリーでコスト効果の高い利点をもたらし、既存のERPアプリケーションを改変するニーズを最小限に抑えます

AP Agilityは従来の紙書類の自動化、情報の抽出、買掛金プロセスの向上、プロセスの自動化、最適化および分析などの問題に対処し、顧客、サプライヤー、従業員に完全な機動性を与えるために、多層的な価値をもたらします。



単に請求書ヘッダーフォームを表示するだけではなく、Kofax AP Agilityは、組織が早期支払いの割引を獲得し、支払いの遅れを回避できるようにする、買掛金と請求書処理の自動化ソリューションです。

次のような利点があります。

- ◆ **情報の可視化の向上:** 保管とコンプライアンスの目的、および社内の可視性を向上するため、請求書と他のAP関連文書をデジタル化します。
- ◆ **業務運営上の卓越性:** 請求書と他のAP文書からの情報を、より迅速で生産的かつ正確に処理し、可視性を高め、低コストで生産性と制御を向上します。
- ◆ **サプライヤー関係の向上:** 豊富な情報のAPプロセス自動化、最適化および分析を通じて、新しいレベルのエンゲージメントと連携を確立します。
- ◆ **財務的な俊敏性:** APプロセスによくある、情報集約的なやり取りを大幅に変革し、簡素化することで、財務業務により柔軟に対応します。

## 特徴

**Kofax Invoice Processing Agilityとの統合**により、PO、PO以外の請求書およびクレジットメモのマルチチャネルのキャプチャ、分類、抽出、確認を実現します。このソリューションには、抽出、分類、確認、発注明細の照合および例外処理のための広範な構成オプションが含まれます。TotalAgilityとユーザーインターフェイス(出口)により、ユーザーの拡張性を高めます。

**広範な役割ベースのユーザー管理**により、管理者、リソース、グループを作成します。

**単一または複数のERPをサポートし、裏づけとなるERPデータのマッピング、エクスポートおよびインポートに関する構成ガイドライン**を通じて、対象ERPと連携します。対象ERPに関するガイドラインとコネクタは、PeopleSoft、LawsonおよびMicrosoft Dynamics AX向けの次のリリースで提供される予定です。

**TotalAgilityワークキューを強化し、プロセスの活動とタスクに指定されたすべてのワークタイプを表示**します。

**AP ワークフロー (TotalAgilityプロセス)**により、Invoice Processing Agilityで確認されたすべての請求書を処理し、請求書や割引の期限を計算し、例外、重複、取り消しを再度優先順位づけし、処理します。

- ◆ TotalAgility Designerによるワークフローのカスタマイズ。確認、コーディング、承認、例外処理および請求書エクスポートプロセスは、そのプロセス前後でカスタマイズでき、一部のケースでは置き換えることができます(例、例外処理)。

**複数の組織および事業部門の階層**を構成し、管理できます。組織は対象のERP階層構造に合わせて、複数の事業部門を設定できます。

- ◆ 階層内のユーザーは、役割と権限が指定されます(例、承認レベルの金額、および例外や他の承認者へのエスカレーションの指定)。ベンダーグループを事業部門に設定できます。

**総勘定元帳(GL)コーディング**は、GLセグメント構造をサポートします(例、会社、部門、事業部門、コストセンター、取引タイプ)。コーディングを容易にできるように、検索フォームが提供されます。

期間内に完了しなかった活動や保留状態の請求書について、**電子メール通知**を設定できます。

**電子メールのレビューと承認**には、保留している活動へのハイパーリンクが含まれます。

**統合された実行可能な分析(Kofax Insight™)**では、請求書の処理時間、請求書の次の期日、仕事量と例外が表示されます。ユーザーは優先順位を上げるか、あるいはエスカレーションや承認者を再指定する機能が提供されます。

事業部門での変更に影響を与えるすべてのイベントについて、**監査データ**が提供されます。

**フォームのフィールド設定**により、どのフィールドをフォームで有効にするかを組織別に指定できます。

---

**AP Agilityについて詳しくは、[kofax.jp](http://kofax.jp)をご覧ください。**